

① ペットボトル船遊び



テーマ

ペットボトルの船に乗って川の流れを感じてみよう！

人数

20人

対象学年

小学4年生以上

実施時期

7月から9月

実施時間

4時間～5時間程度

最低経費

3,000円



場所

流れが緩やかで水深が浅い川、モデル地区：能生川 川詰～榎周辺

必要なスタッフ数

スタッフ 5名程度

(児童1班6名で大人1名)+本部係2名 3班体制なら5名 監視員は多いほどよい。

※プールなど安全な環境で行う場合、指導者・監視員を減らすことができる。

指導のねらい

- ・ 地元の川に関する歴史を学ばせ、地域愛の育成を図る。
- ・ 川の周辺環境(外観・水質・におい)を体験する機会を提供する。
- ・ 水辺の危険について学ばせることで、身を守る知識を学ぶ機会を提供する。
- ・ 自然の大切さを学び、環境について考える心を育てる。

指導の流れ及び留意点

◆活動の流れ・内容

- ①川の歴史について学ぶ機会や資料を作る。
- ②集合前に事前用具を準備する。
- ③参加者の人数・体調確認を行い、開会式・スタッフ紹介・スケジュールを説明する。
- ④班ごとにペットボトルを組んでガムテープで固定して船を作る。
- ⑤全員が完成したら準備をして川に移動、川の様子をみんなで観察してもらう。
- ⑥ライフジャケットなど安全装備を付けて川で体験活動をする。
- ⑦活動範囲のごみ拾いをして撤収する。
- ⑧活動の振り返りをする。

◆留意点

- ・溺れる、手足を切るなど危険がある事業であるため職員・役員は事前に現地を確認し、現地近くでトイレや着替えはどのようにするか確認しておく。
- ・炎天下の活動となる場合、脱水症状や熱中症に注意し、飲料水など準備しておく。
- ・川の周辺探索は事前に調査場所を決めておくこと。実施場所については開けた場所、においや透明度の確認など水辺で行う。
- ・体調不良の方が出た場合の対処方法について事前に職員・役員で打ち合わせておく。
- ・天候が悪い場合は延期・中止をするなど安全確保について常に心掛けること。
- ・流れがあるところでは上流下流に役員を配置し常に安全確保を行う。

必要な用具（物品例）

※★は必須物品

	用品名	経費の目安	備考
★	ペットボトル 2ℓ	-	4個で1ブロックとし、ブロックを縦横に組み、ガムテープ等で固定する 集めれば無料だが、嵩張るので保管場所確保に注意。当日各自で持ち寄ってもいい。
★	布ガムテープ	2,000 円	なるべく 100 均で購入。作る大きさによるがペットボトルを組む際に使用 <u>相当数が必要</u> であり、テストで多少組んでみて、必要数を計算して購入すること。
★	スタイロフォーム(合板)	-	天板用、無いと体重が1か所にかかり壊れやすい。乗る場所に板を付ける場合に使用する。古物でもよい。 不要なスノコ・ベニア板でも代用可能。
★	ビニールロープまたは番線	1,000 円	ペットボトル固定の強度を上げる 古物でよい。固定に使わなければ不要
★	ライフジャケット	借用	能生 B&G から無償で借用可能 (生涯学習課にTel)
★	ロープ付き大浮き輪など	借用	能生 B&G から無償で借用可能 (生涯学習課にTel)
	救急箱・ブルーシート、ゴミ袋、ホイッスルなど	-	活動時に使用、既存のものがあれば購入不要
	カメラあるいはビデオ	-	記録用、既存のものがあれば購入不要
	ワンタッチテント	-	日蔭用、既存のものがあれば購入不要
	飲料	-	各自持参だが、不足に備えて用意したい。

※借用した品が破損した場合、新たに購入して返品する。

※一般参加の場合、参加費を取って布ガムテープ代・お茶代などにあてる。

安全装備を最優先に、テープ使用量は事前に1ブロック組んで確認すること。

※材料はなるべく廃材などを使うようにしてコストを下げる。

ただし、安全とコストを比較する際には必ず安全に事業開催できることを優先する。

参加者の持ち物

水の中に入れる服装と川の中に入れる靴、水筒、帽子、タオル
必要であれば着替え、救急用品

外部指導者・事業相談

事業相談:糸魚川市生涯学習課

教科との関連

【理 科】3年:身近な自然の観察

5年:流水の働き

【社 会】5年:国土の自然などの様子

【体 育】3・4年:浮く、泳ぐ運動

5・6年:保健(けがの防止の理解、簡単な手当)、水泳

その他 再度の注意

担当者は事前にペットボトルを集め、4個1ブロックをいくつか作ってみること。

その時に必要なガムテープ等の資材を再チェックし、実際のイベントの状況をイメージ出来るようになってから実際の募集を開始すること。

水辺の事業で危険があるため、確実に現地確認を行うこと。

他市他団体を見ると、2ℓペットボトル4本のブロックで幼児も川で遊んでいる。

十分な注意をすることで危険なく簡単に学べ・楽しめるが、油断すると大事故につながりかねない事業であることを念頭において事業を行うこと。